

腐敗症状のリンゴ果実から分離された菌の種類

2002年に県内のリンゴほ場から腐敗果実を採集し、菌の分離・同定を行った結果、輪紋病菌と炭そ病菌の分離割合が高かった。果実病斑は類似するが、発生時期、病斑部の特徴などで診断が可能である。炭そ病は発病果実が2次伝染源となるため、摘み取りほ場外に搬出するなど適切に処分する。

I. リンゴ腐敗果実から分離された菌の種類

地域名	採集地名	供試菌株数	<i>Colletotrichum gloeosporioides</i> (炭そ病)	<i>C.acutatum</i> (炭そ病)	<i>Botryosphaeria</i> (輪紋病)	その他
東南 村山	山形市	21			20	1
	天童市A	41	33		8	
	天童市B	12	2		7	3
	山辺町	9			9	
	中山町A	18			11	7
	中山町B	9		1	8	
北村山	東根市A	37	1	1	33	2
	東根市B	13	5		8	
	東根市C	18			15	3
西村山	朝日町A	18		4	8	6
	朝日町B	16			13	3
	大江町A	29	15	2	9	3
	大江町B	38			35	3
置賜	米沢市	20	4	1	12	3
	南陽市	33	1	10	16	6
庄内	櫛引町	9	7		2	

II. 炭そ病と輪紋病の比較

	炭そ病	輪紋病
発生時期	・ 幼果期以降	・ 成熟期以降
主な伝染源	・ 罹病果実 ・ 前年感染した果台や枝 ・ ニセアカシア等の寄生植物	・ 枝幹部のいぼ皮病斑
発病時の特徴	・ 幼果での病斑は拡大せず小斑点で停滞する場合もある ・ 病斑部の陥没 ・ <u>病斑上に鮭肉色の胞子(分生子)が噴出し、雨滴等により次々に二次伝染する</u>	・ 輪紋状に病斑が拡大 ・ 病斑部と健全部との境が不明瞭 ・ <u>病斑部の腐敗、軟化</u>

リンゴ炭そ病の病徴



写真1 リンゴ炭そ病の果実病斑



写真2 炭そ病による陥没症状

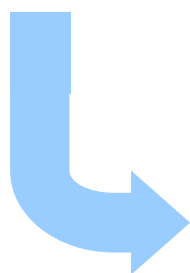


写真3 病斑上に噴出した分生子塊（拡大写真）

リンゴ輪紋病の病徴



写真4 輪紋状に拡大する病斑



写真5 果実の腐敗症状

【留意事項】

- ・ 県内で発生している炭そ病から2種類の病原菌が分離された。炭そ病菌のうち ***C.acutatum* はベノミル剤の効果が低い**ので発生地では薬剤選定に注意する。
- ・ 炭そ病は**病斑上に形成された胞子（分生子）によって次々に被害が拡大する**ため、罹病果実を摘み取り、ほ場外に搬出した上で薬剤散布を行う。

問い合わせ先 山形県病害虫防除所
TEL : 023-644-4241

執筆者：後藤新一
e-mail : ybyogaichu@pref.yamagata.jp

禁無断転載